

市と私たちの暮らしの関係



子どもから大人まで学べる環境づくりのために小中学校・図書館・各種施設の整備や情報化や国際交流など

住みやすいまちづくりのため  
の道路・公園・住宅・上下水道などの整備



生命や家の安全を守るために  
消防防災機能などの整備



市民の健康を守り、まちをきれいにすること  
や病院などの整備



市は皆さんの暮らしを様々な分野で支えています。このサービスに要する経費は、市民の皆さんの税金や地方交付税、国庫補助金などで賄っています。

ところが、今この市町村の在り方や将来について、様々な不安が生じています。

どんな問題があるのでしょうか。そしてなぜ今、市町村合併なのでしょう。

地域のことは地域で決める地方分権時代に「都留市」は十分な力を

発揮できるのででしょうか？

限られた職員数では、一人の職員が様々な仕事を持ち、高度で専門的なサービスの提供には困難があります。

次に現れる広域的な課題に、今のままの「都留市」で適切に対応することは可能なのでしょうか？

ゴミ処理場からのダイオキシンへの対応も、大規模施設での連続運転が必要となります。市町村には、介護保険をはじめ、これから様々なより高度な専門知識や技術が求められる時代に入ります。

国も地方も多くの借金を抱えている中で、はたして今まで通りの財源の確保ができ、様々なサービスを提供し続ける事ができるのでしょうか。

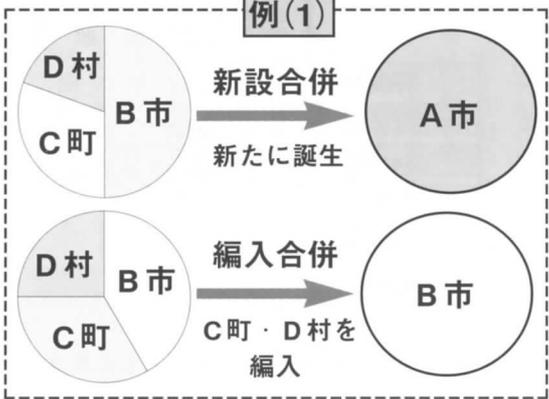
現実には、非常に厳しい状況にあると言えます。国の経済財政諮問会議や研究会では、「地方自治制度」や「地方交付税制度」の改正に向けての動きが報道されています。

国と地方の(都道府県・市町村など)の借金の合計は、平成十二年度末で約六四五兆円(一世帯当たり約一、六七〇万円、勤労者世帯平均年収の約二・四倍)になると言われ、さらに近い将来、約七〇〇兆円になると見込まれます。

これらの問題に対処する手法として「市町村合併」が考えられます。

市町村合併とは

「市町村合併」は、いくつかの市町村が一緒になって、より大きな市町村になることを言い、例(1)のパターンがあります。



市町村合併で私たちの暮らしは良くなるのでしょうか。

市町村が合併することによって、市民の皆さんの今の暮らしを守り、さらにサービスの向上を目指すこととなります。

では、具体的にどんなことが考えられるのでしょうか。

旧市町村の境界がなくなることで合併前にそれぞれの市町村で建設した図書館・スポーツ施設・保健福祉センターなどをすべて同じ条件で使用でき、生活の実態に即した小中学校区が設定できます。広域的観点から各公共施設が効率的に、しかも類似施設建設などの重複が避けられます。

住所地と勤務地が同じ市町村に含まれることで勤務地の近くでもいろいろな施設を使用したり、窓口サービスを受けられるようになります。

いくつかの市や町村が一緒になることで

職員間の競争が生まれ職員の資質の向上が図られ、市民サービスの向上につながります。

合併による職員数の増加は、専門職や技術職の雇用が図られ、市民の皆さんにより高度化・多様化したサービスを提供できます。同時に管理部門の人員削減が可能となり人件費の削減が図られます。

より大きな市町村の誕生により地域の存在感や格の向上と、イメージアップや都市基盤整備により、企業の進出や若者の定住など地域の活性化が図られます。

でも本当にいいとこばかりなのではないでしょうか？

市町村が合併して大きくなることで問題はないのでしょうか。

役所が遠くなって、今までより不便になりませんか？

合併後も、それぞれの庁舎は、新たな市町村の庁舎や支所、出張所として通常使用され窓口サービスは今ままで変わりなく受けることができます。また、情報技術の活用やネットワーク化により、より高度なサービスが受けられます。

中心部だけが良くなって、周辺部はさびれてしまいませんか？

福祉などのサービス水準が低下したり、保険料金などが高くなることは？

合併前の市町村間でサービスの水準が異なることは多いのですが、一般的には、事務処理の方法の効率化によりサービスは高い水準に、負担は低い方に調整されることとなります。



大切なのは、論議すること  
地域の実情により様々なケースが考えられたり、いろいろな問題が起こり得ますが、住民サイドにたつて将来の都留市と地域(まちづくり)について話し合い解決方法を見つけていくことが重要となります。「都留市」は市民の皆様のもです。その将来について他人事では片付けられる事ではありませんが、様々なことについて真剣に考えていきたいと思います。

「都留市」の主役は市民の皆さんです。